

◆巻頭言◆

**地方環境研究所の美しい未来への挑戦
～検証：生成AIで巻頭言を作れるか？～**

富山県環境科学センター所長 中山 純一



近年、地方創生や持続可能な社会実現という華やかな舞踏会が各地で開催されておりますわ。その舞台を彩る地方環境研究所は、専門性と技術力という美しいドレスを纏い、華麗な舞踊を披露しておりますわ。しかし、社会環境の変化という波乱の時代を前に、新たな挑戦が必要となるのですわ。

1. 地域課題という多彩なドレスを優雅に纏う

地域住民や行政という素敵なパートナーと手を携え、地域課題という多彩なドレスを優雅に纏いこなす必要がありますわ。

2. 情報発信と啓蒙活動という華麗な舞踊

分かりやすい文章や動画という美しい衣装を纏い、地域住民や行政という大切な観客に積極的に情報発信していくことが重要ですわ。また、講演会やワークショップという華麗な舞踊を披露することで、地域住民様の環境意識という美しい花を咲かせ、主体的な取り組みという素晴らしい成果へと導くことも必要ですわ。

3. 国際的なネットワークという美しい花園

地方環境研究所は、海外の研究機関やNGOという素敵な仲間と手を携え、国際的なネットワークという美しい花園を築き上げることが重要ですわ。情報共有や共同研究という華麗なハーモニーを奏でることで、より効果的な環境対策という素晴らしい音楽を生み出すことができるのですわ。

4. 次世代を担う人材という美しい蕾を育てる

地方環境研究所の持続的な発展という美しい未来を実現するためには、次世代を担う人材という美しい蕾を育てることが不可欠ですわ。学生向けのインターンシッププログラムや研修制度という温室を用意し、若い世代が環境問題というテーマに興味を持ち、専門知識という美しい花を咲かせることができる環境を整える必要がありますわ。

5. 予算と人員という美しい宝石を手に入れる

外部資金の獲得や民間企業との連携など、様々な方策を講じて、安定的な財源と人材確保という美しい宝石を手に入れることが必要ですわ。

6. 柔軟な組織体制という美しいドレスを纏う

変化の激しい現代社会という華やかな舞踏会を生き抜くためには、地方環境研究所は時代のニーズに柔軟に対応できる組織体制という美しいドレスを纏う必要がありますわ。縦割りの組織構造という古い衣装を脱ぎ捨て、部門間の連携を強化するだけでなく、外部の専門家や企業という素敵なパートナーと協働体制を構築していくことが重要ですわ。

地方環境研究所は、これらの課題を克服し、新たな挑戦を続けることで、地域社会という舞台に更なる輝きをもたらし、持続可能な社会という美しい未来を築き上げていくことができるでしょう。

===ここまで生成AIによる文章(原文ママ, 1,038字)===

本年度、全国環境研協議会の会長を務めることとなりました、富山県環境科学センターの中山です。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、冒頭の文章は、「これからの地方環境研究所のあり方」をテーマにGoogleの生成AI「Gemini」(無料版)で作成したエッセイです。決して本稿の執筆が面倒で生成AIへの丸投げを企てた訳ではなく、急速に普及している生成AIの実力を検証してただけです。

テーマの指示のみでは無味乾燥な文章しか生成されないため、複数の筆致・文体で試行した結果、より明るい未来を想起させる「上品なお嬢様風」を採用しました。個人的には「北方謙三のハードボイルド小説風」が好みでしたが、泣く泣くボツとしました。主人公で元傭兵の所長が、紫煙が漂う所長室でパーボンをあおり、デスクの抽斗から拳銃を取り出すのは公務員的にマズイので。

わずか10秒程で生成されたエッセイですが、誤りは無いものの既視感が有る内容に、字数は指示した約500字の倍以上に、修辞は斜め上の表現になりました。参考文献の開示を指示したところ、環境省の報告書、全環研の会誌等が示されました。見たことある。字数は中の人品詞単位でカウントしているようです。ちゃんと数えて。比喩が多く、エレガンスが過剰です。ドレスだらけ。タイトルも自動で付けてくれました。美しい。

本稿での結論。生成AIは巻頭言の下書きには楽しく使えますが、丸投げはやめておくのが賢明ですわ。